

③高齢者人口

○高齢者人口密度を地区別に見ると、全体的に高齢者が増加するなかで、特に、小倉都心とその周辺、黒崎周辺、モノレール沿線、門司区南部などで密度が高くなっています。

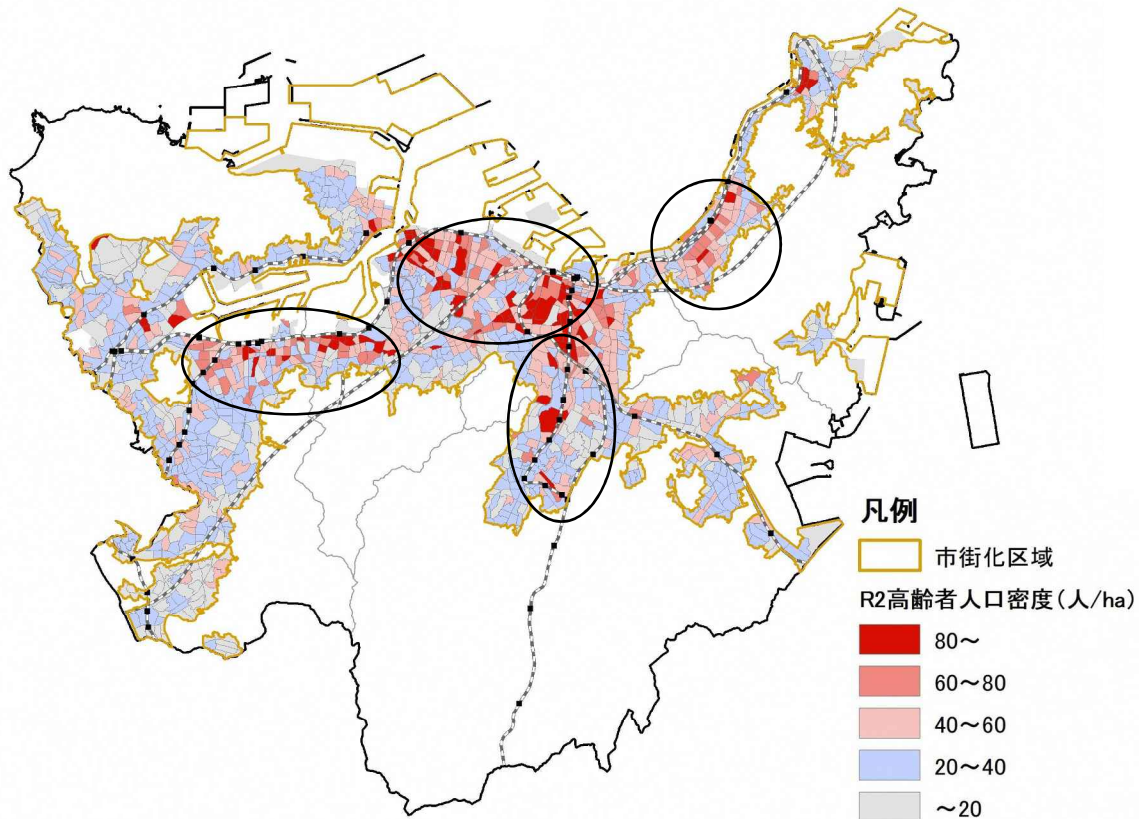


図 令和2年（2020年）高齢者人口密度

出典：総務省「令和2年国勢調査」

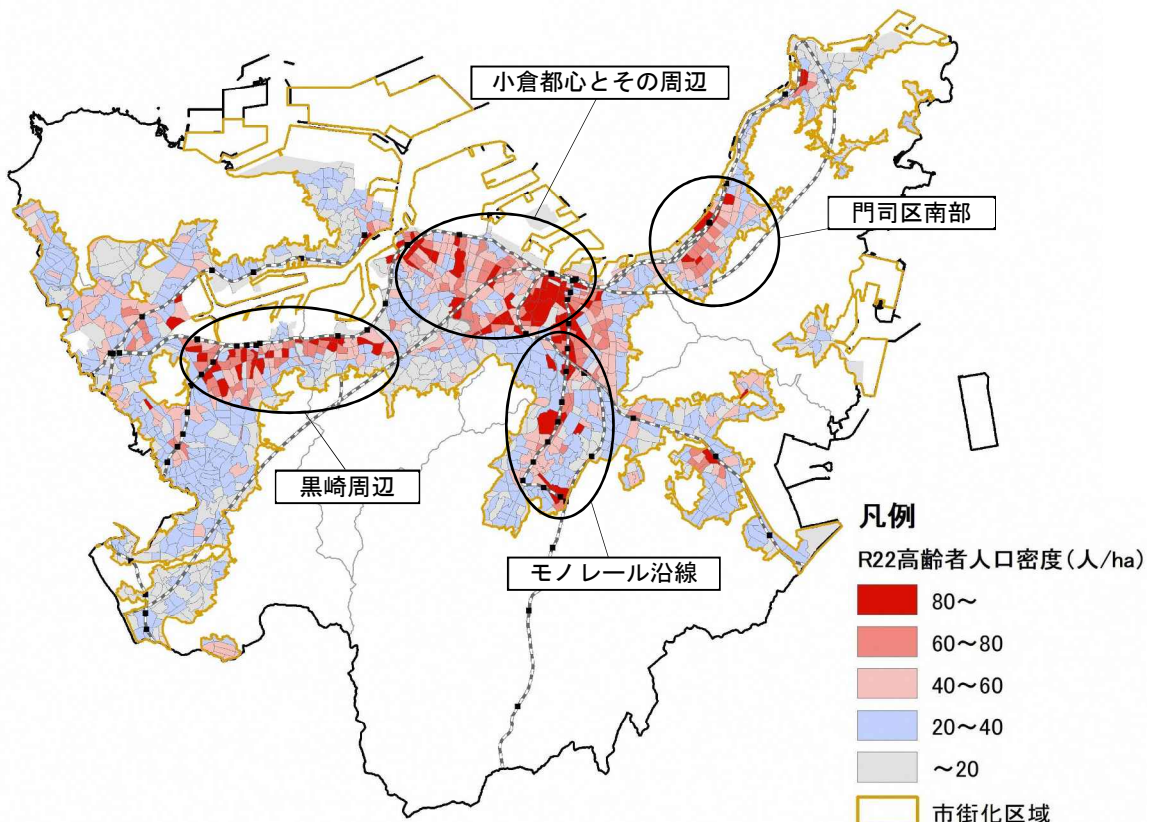


図 令和22年（2040年）高齢者人口密度

④高齢化率

○将来の高齢化率を地区別に見ると、八幡東区、若松区東部、門司区北部などで高齢化率が高くなっています。

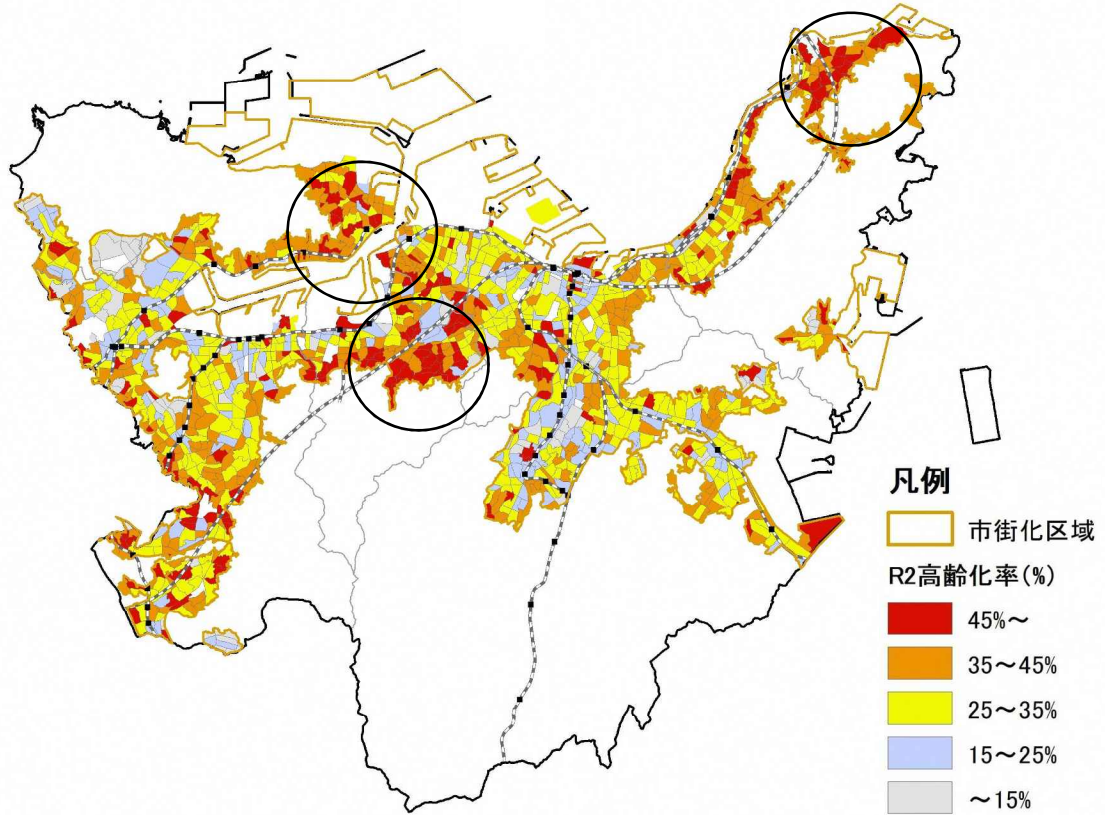


図 令和2年（2020年）高齢化率

出典：総務省「令和2年国勢調査」

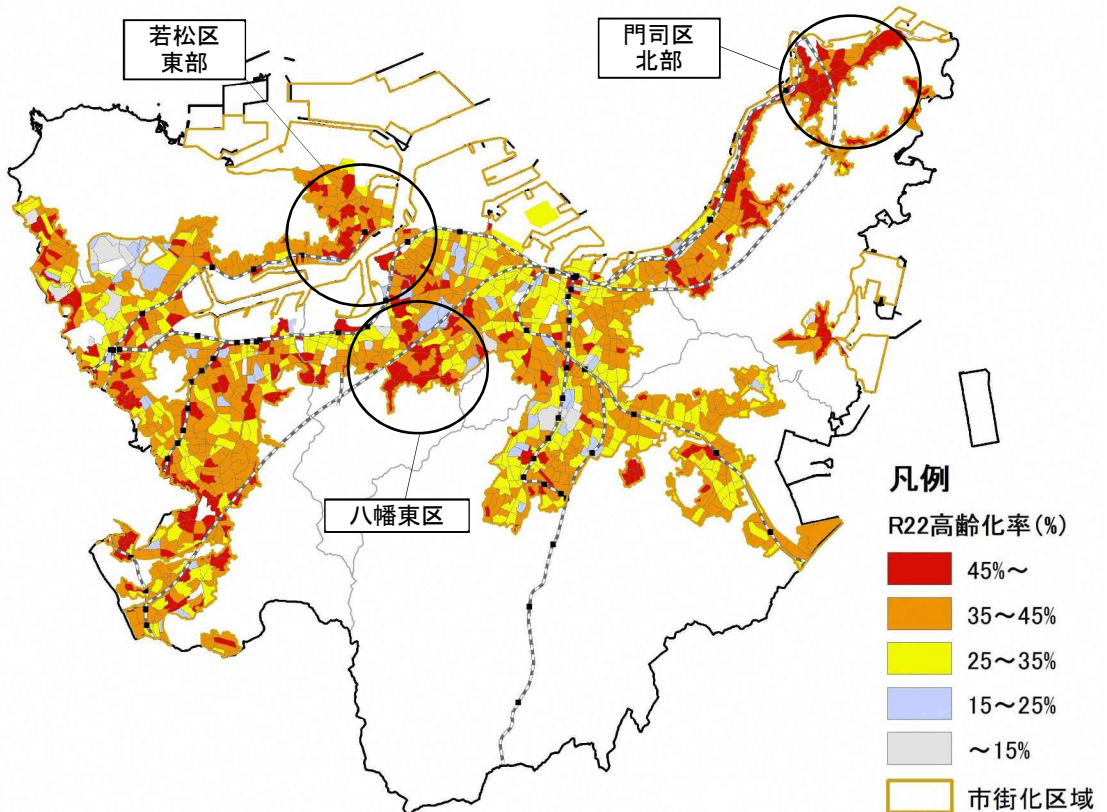


図 令和22年（2040年）高齢化率

⑤年少人口

○全体的に年少人口は減少するものの、地区別に見ると、学研都市周辺、小倉都心とその周辺、モノレール沿線、黒崎周辺において、年少人口密度40人/ha以上の地域も存在します。

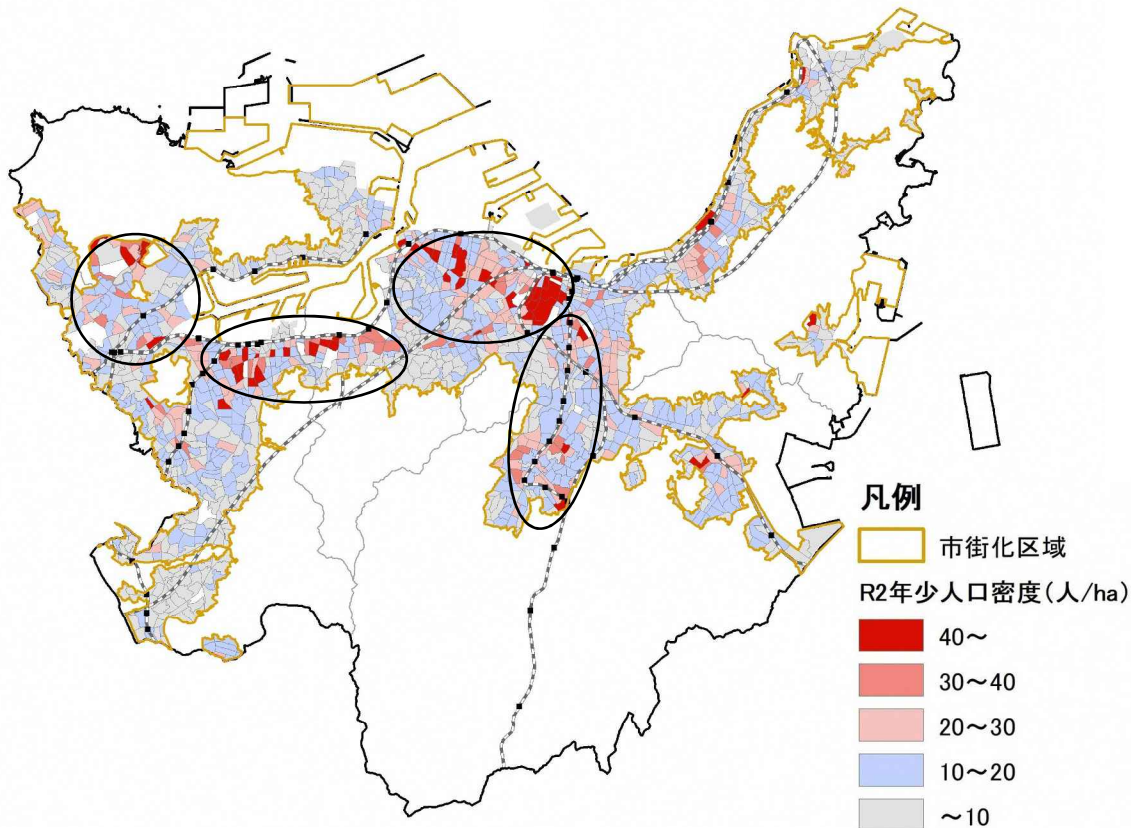


図 令和2年（2020年）年少人口密度

出典：総務省「令和2年国勢調査」

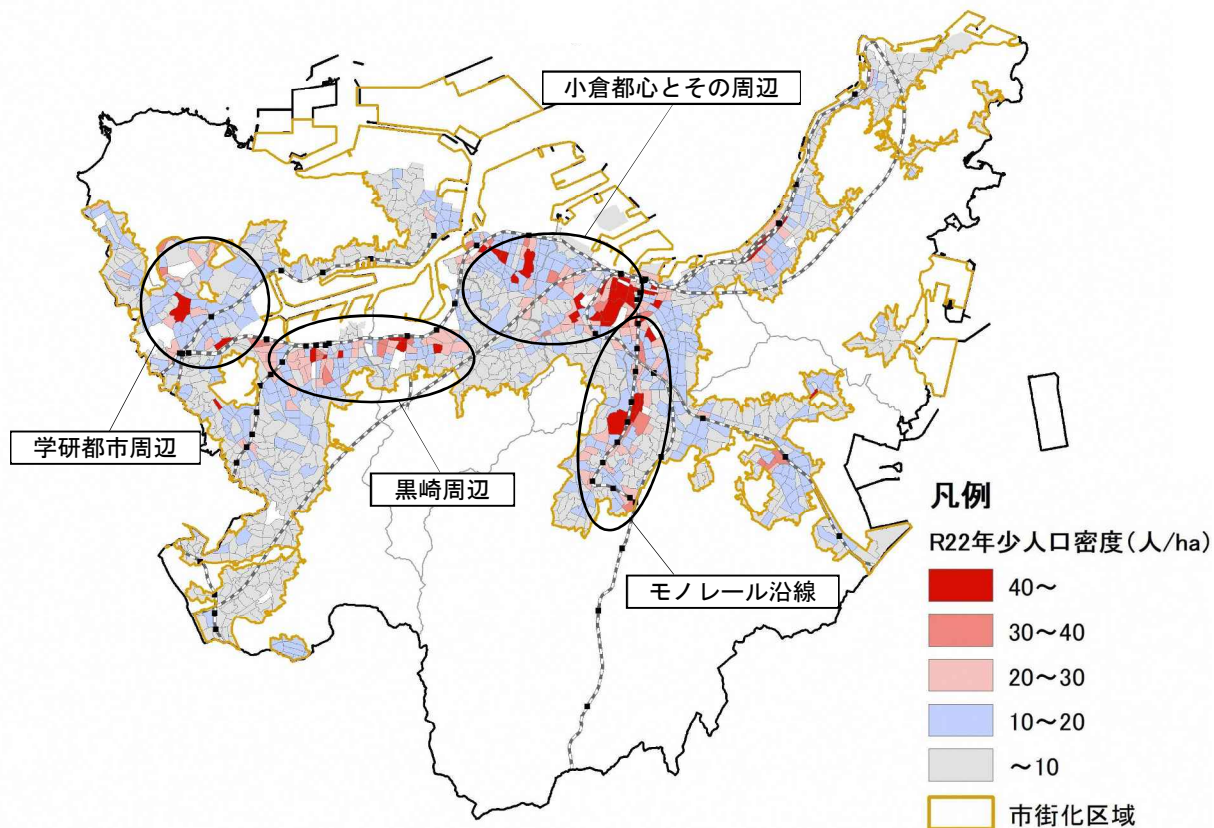


図 令和22年（2040年）年少人口密度

⑥人口増減率・人口密度増減

- 人口増減率を地区別に見ると、八幡東区、若松区東部、門司区北部などでは人口減少率が高く、小倉南区西部、八幡西区北部などでは人口が増加しています。
- 人口密度増減を地区別に見ると、JR戸畑駅周辺、JR門司駅周辺などの中心市街部ほど密度の低下や減少率が大きく、小倉南区西部や八幡西区北部で密度が高くなっています。

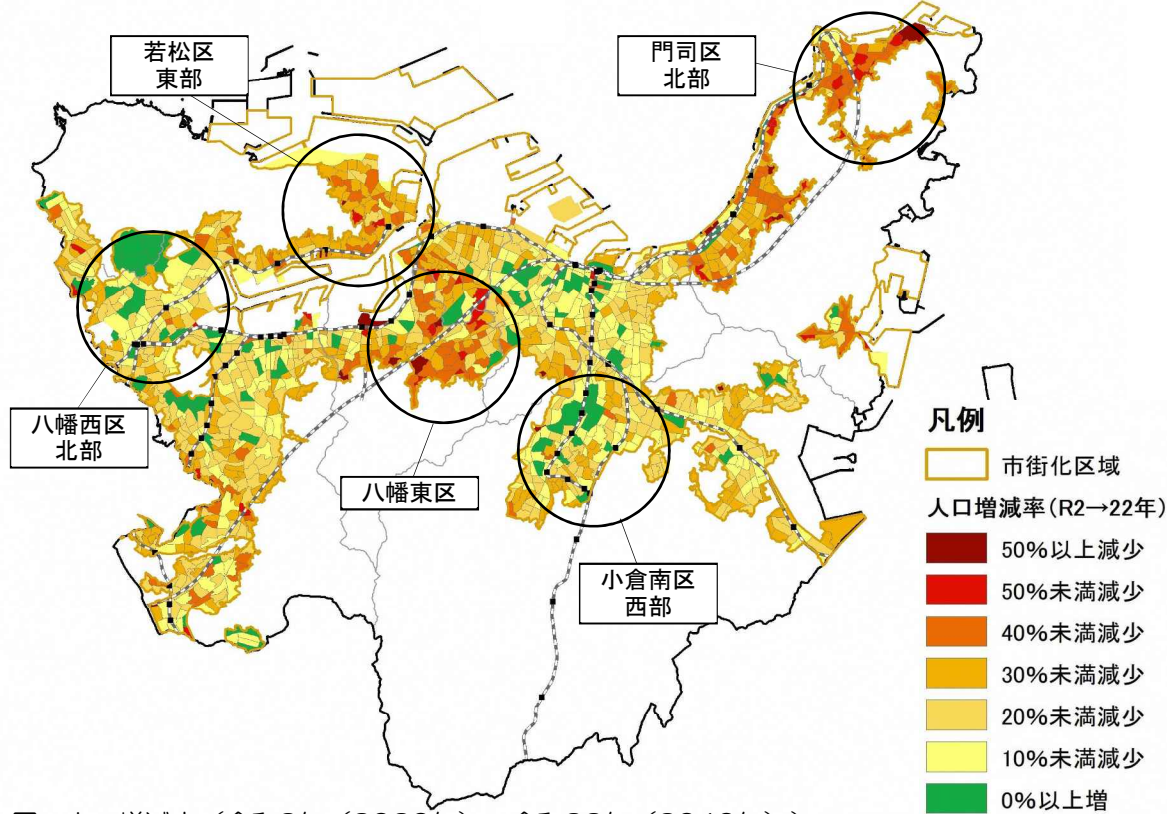


図 人口増減率（令和2年（2020年）⇒令和22年（2040年））

出典：総務省「令和2年国勢調査」

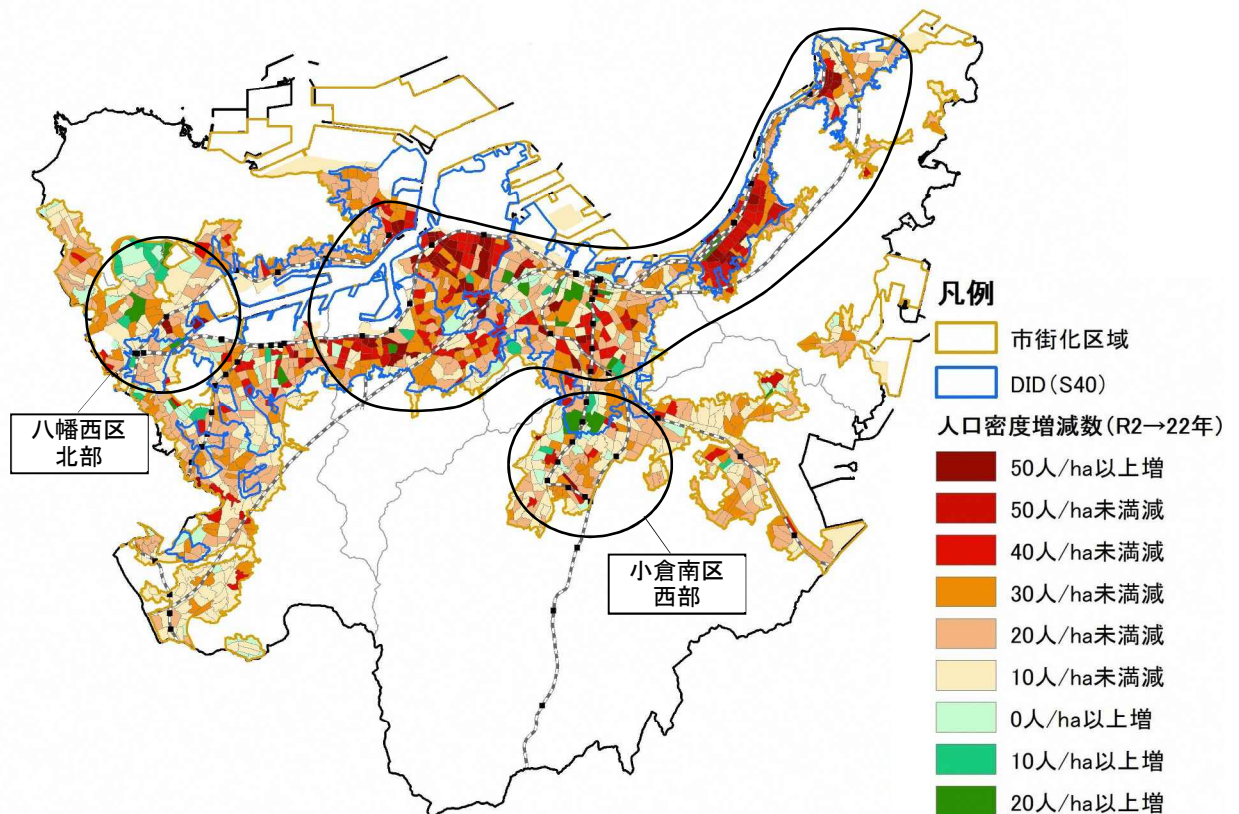


図 人口密度増減（令和2年（2020年）⇒令和22年（2040年））

出典：総務省「令和2年国勢調査」